

# JICA モンゴル事務所ニュースレター 2017年11月号

## トップニュース

### 「ウランバートル市初等・中等教育施設整備計画」の贈与契約(G/A)締結



G/A 署名式の様子

11月30日、無償資金協力「ウランバートル市初等・中等教育施設整備計画」の贈与契約(G/A/供与限度額23億7,900万円)が締結されました。本事業は、ウランバートル市内に小・中学校を4校整備するもので、障害児への配慮や防災・環境対策、ユニバーサルデザイン等を設計に取り入れる予定です。本事業により、教育施設の不足が改善されると共に、モンゴルの教育施設のモデル校として、質の高い学校施設の整備推進に貢献することが期待されます。また、現在実施中の技プロ「障害児のための教育改善プロジェクト」との連携も予定しており、障害を持った児童も含めて誰にとっても使いやすい学校づくりをハード・ソフトの両面で支援し、モンゴルの学習環境を包括的に改善することを目指します。

## 政治・経済動向

### 2018年度予算案が可決

11月14日、秋国会において、2018年度予算案が可決・成立しました。2018年度予算では、2018年のGDP成長率を4.2%と推計し、財政赤字はGDP比約8%(約2.4兆トゥグルク)まで削減すると見込み、幼児を持つ母親やひとり親世帯への手当支給や学校の2部制移行推進に向けて教育施設整備費等が盛り込まれました。IMFプログラムが実施される中、足元では、石炭等の資源価格が上昇し、GDP成長率の上昇や外貨準備高(FDI)が増加する等、景気回復への期待が高まり、国内では教職員や医療従事者の賃上げ要求等の声上がる等、歳出拡大圧力が高まっていく可能性があります。財政再建を進めつつ、投資環境整備や産業多角化等の持続的な経済成長に向けた取組みを着実に実行できるか、現政権の舵取りが今後のモンゴル経済の行方の鍵を握っていると言えます。

### フレルスフ首相が与党人民党党首に就任

11月20～21日にかけて、与党人民党大会が開催され、フレルスフ首相が他候補を退けて、人民党党首に選出されました。首相指名時は、エルデネバト前首相を支持する人民党議員の多くが欠席する等、与党内の派閥争いが表面化していましたが、フレルスフ首相が同党党首に就任したことで、安定した政権運営の足がかりとなるか注目されます。

## プロジェクトの動き

### 「日本モンゴル教育病院建設計画」で棟上式を実施



棟上式に参列する事業関係者

11月3日、無償資金協力「日本モンゴル教育病院建設計画」で、バヤンズルフ区に建設中の病院の躯体完成に伴う棟上式が行われました。当日は、Z.エンフボルド大統領府長官やサランゲル保健大臣などのモ側要人も参加し、棟上げを祝いました。本計画は、モンゴル初の教育病院となるもので、国立医科大学の付属病院として建設されています。また、本計画では、病院施設の建設に加え、必要な医療機材も調達される予定で、モンゴルの医療サービスの質の向上に寄与することが期待されています。今後、2018年7月の完工を目指して、工事が進められる予定です。

### 「国家温室効果ガスインベントリの継続的な改善サイクル構築にかかる能力向上プロジェクト」が開始



PJ開始にあたり自然環境・観光大臣との意見交換の様子

11月22日、自然環境・観光省及び環境・気候基金をモ側実施機関とした技プロ「国家温室効果ガスインベントリの継続的な改善サイクル構築にかかる能力向上PJ」のキックオフ会議が開催され、本PJが本格開始しました。本PJは、モンゴル政府の気候変動対策への優先度の高まりを背景に、温室効果ガスインベントリシステム作成能力の向上を目的として実施されます。キックオフ会議では、本PJの成果、活動内容、タイムライン等に関する意見交換が行われ、今後は、2018年1月に予定されている第1回合同調整会議(JCC)に向け、WGにて準備が進められる予定です。

### 「公正競争環境改善プロジェクト」で競争法改正に関わる第2回パブリックコメント協議会を開催



パブリックコメント協議会の様子

技プロ「公正競争環境改善PJ」では、日本の公正取引委員会の協力の下、モンゴルの競争法改正を支援しています。11月9日、公正競争・消費者保護庁(AFCCP)とJICAの共催で、関連省庁関係者等80名を対象とした第2回パブリックコメント協議会が開催され、改正法案の内容を検討・議論しました。セミナーに出席した原JICA専門家(公正取引委員会)は、法改正案が競争当局の独立性を確保するといった点で、概ね賛成できる内容と評価しました。同セミナーでは、エンフツブシン副首相から、本PJがモンゴルの競争法改正の取組みの後押しとなっているとの発言がある等、本PJを高く評価する声が聞かれました。



## 「持続可能な都市のための都市計画にかかる日モ合同セミナー」開催



セミナーの様子

11月20日、日モ外交関係樹立45周年記念関連イベントの一環で、建設・都市開発省の主催で、「持続可能な都市のための都市計画にかかる日モ合同セミナー」が開催されました。当日は、関係省庁や地方行政機関等から多くの関係者が参加する中、JICAを含む日モ関係機関の取組み紹介、戸沼幸市（一財）日本開発構想研究所代表理事（元日本都市計画学会長）による講演、日本都市計画学会からのビデオメッセージ等を交えながら、モンゴルの持続可能な都市の在り方について議論がなされました。参加者からは、大気汚染や交通問題等、ウランバートルの抱える課題解決に向けた都市計画的アプローチや首都一極集中緩和に向けた地方開発の重要性が指摘される等、示唆に富む内容となりました。

## 「中小企業金融に係る制度構築支援」専門家が「北極星勲章」を受賞



受賞祝賀パーティーで記念撮影する砂川氏

11月10日、モンゴルの中小企業振興への功績を称え、砂川眞氏（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング）に対して外国人に授与される勲章の中で最高位の「北極星勲章」が授与されました。砂川氏は、円借款「中小企業育成・環境保全ツーステップローン事業フェーズ1・2」のコンサルタントとして中小企業や仲介金融の能力向上に取り組むとともに、現在は、技術協力専門家として中小企業金融に係る制度構築支援に従事しています。今回の受賞は、これらの長年に亘る貢献が高く評価されたもので、受勲式では、バトルガ大統領自ら砂川氏に対して勲章を授与しました。

## ボランティア事業の動き

### ボランティア活動紹介（社会福祉分野で活躍するボランティア）



学生に指導する小野JV

モンゴルに対し、社会福祉分野のボランティアを継続して派遣しています。その一人、小野由貴JV（2016-2/ソーシャルワーカー（SWr））は、ドルド大学で教員や学生に対し、日本のSWrの役割や社会福祉サービスを伝え、地域で働くSWrの質向上の働きかけを行っています。当初は、モンゴルと日本の社会で違う所がたくさんあり、日本の知識が役立つか不安があったそうですが、授業を見学し、教員や学生と交流するにつれて、自分のすべきことは日本のSWrの役割などを伝えることなのだ実感するようになったそうです。モンゴルのSWrは一般的にチームアプローチ（例えば医療SWrが医者や看護師、リハビリ職種等と連携し業務にあたること）が苦手であるという課題がありますが、教員や学生が日本と比較しながら課題解決策を自ら考え、SWrがより適切に社会に関わって業務を行えるようにするのが今の目標とのこと。日本のSWrの役割を着実に伝え、必要な部分や参考になることを取り入れてもらい、少しでもモンゴルのSWrの質向上につながるよう日々活動に励んでいます。

### その他のボランティア情報

- 世界HOTアングル記事：増田たくみSV（2016-2/経営管理/モンゴル国商工会議所）「大草原を駆け抜ける：モンゴル国際草原マラソンのスタッフを経験して」 → リンクは[こちら](#)

## 研修・帰国研修員同窓会

### 2017年度同窓会フォローアップセミナー対象テーマを決定



2016年度に開催したセミナーの様子

帰国研修員同窓会では、JICAの研修ノウハウをモンゴルで共有・展開する目的で、帰国研修員が日本での研修成果を発表し、研修に参加できなかった人材の育成を図るためのフォローアップセミナーを開催しています。セミナーの開催枠に限られる中、例年、多数の応募があり、同窓会役員会で選考を行っています。2017年度は、19件の応募があり、役員によりセクター毎に選考を行った結果、高齢者の健康づくりのために家庭病院の看護師が果たすべき役割（保健）、授業研究（教育）、日本の催告センター（税務）、環境教育（自然環境）、食の安全（農業）が選ばれました。今後、12月から1月にかけて、これらをテーマにしたセミナーが開催される予定です。

### 事務所ナショナルスタッフが日本語で執筆！

### コラム ～モンゴルの文化・生活事情紹介～ 「子どもを守るおまじない」

モンゴルでは、日が暮れてから子供（3歳くらいまで）を連れて外出する際に子供のおでこや鼻に炭を塗り付けます。炭を塗ることで、子供が暗闇を怖がらなくなったり、悪いことから子供を守ると言い伝えられています。モンゴルの昔話にもこんな話があります。昔々、二匹の鬼が、赤ん坊をさらうために、夫婦喧嘩の種をまき、怒り出したお母さんが赤ん坊を連れて家から出てくるのを待ちました。すると、鬼の企て通り、夫婦は喧嘩を始め、我慢できなくなったお母さんは赤ん坊を連れて実家に帰ろうとしました。その時、お母さんは赤ん坊の鼻に炭を塗りつけたところ、鬼の目には、お母さんが赤ん坊ではなくお釜を抱えているように見えたために、赤ん坊をさらうことは出来なかったのです。（ツェギー所員）



おでこに炭を塗った子ども



独立行政法人 国際協力機構 モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia

(Central P.O.Box 682, Ulaanbaatar 211213, Mongolia)

Tel:+976-325939, 311329 Fax:+976-310845 E-mail: [mg\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:mg_oso_rep@jica.go.jp)